重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	#+ 31 64 m	石川県立飯田高等 分析 (成果と課題)
確かな学力の醸成の ために生徒の主体的	0		1・2学年それぞれで目標基準を	集計結果 1年 A	がが、(放朱と歌題) 成 果:7月進研模試では、1年生は良好である。2年生についても、過去回と比較 すると全体的に成績が上昇してきている。
な学びを通して、思考 力・判断力・表現力を		息敵の同上を囚る	A: すべて達成した	60以上16.7% 55以上27.3%	明 2 年生の上位層が薄い。 課 題: 2 年生の上位層が薄い。
育成する。			B: 2つ達成した	50以上51.5%	改善策:学年会や進路連絡会を通して生徒の学習状況を把握し、学年と教科で連携し
		1	C: 1 つ達成した	2年 B	て苦手科目、弱点分野を補強する指導を行う。
		<u> </u>	D: 達成できなかった	55以上21.9% 50以上39.7%	
		進路実現可能な学力を身につ けるために自立的学習習慣を	進路アンケートで授業外学習時間を確認し、学年+1時間を達成している生徒の割合が	_	成 果:4月アンケートでは、過去3年間と比較すると、どの学年も昨年度に次いで 2番目に多い割合である。
		定着させる。	A: 80%以上	D	課 題:学力幅が大きく、学習時間を一律に引き上げるのは難しい。
		1	B: 70%以上 C: 60%以上	1年33.6% 2年 1.1%	改善策:授業の充実に継続的に取り組み、隙間時間の活用や自主学習につなげる。また、他を牽引するような上位層を育成するため、高い目標を掲げ、各学年で
		1	D: 60% 未満	3年 0.8%	た、他を挙引するような工位層を自成するため、向い日保を持り、台子平で 学習習慣の確立に取り組む。
	3	公務員志望者が幅広い知識 と、情報処理能力を身につけ、	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合 が		成 果:3年生対象公務員模擬試験最終回で、受験者10名中B判定4名、A判定2 名の計6名でちょうど60%であった。
		実際の公務員試験に対応でき る力を育成する。	A: 60%以上 B: 40%以上	Α	課 題:1次試験(教養・適性)優先、また業務内容の理解が十分でなく、2次の面接への対応が不十分。
		1	C: 30%以上	60%	改善策:各職種での業務内容の指導を徹底し、面接での適切な応答を自発的に考えさ せる。
		研究授業、互見授業により、探 究的な学習活動や主体的な	D: 30%未満 授業改善への取組に年間を通じて参加した回数が		年度末にアンケートを実施する。
		学びを推進して、思考力を育成する。	A: 5回以上 B: 4回	未	
			C: 3回 D: 3回未満		
		1	授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意 見を共有することにより理解を深めることができる」の評価が	Λ	成 果:授業改善アンケート項目⑥ならびに⑩について、A「あてはまる」B「だい たいあてはまる」の肯定的評価の合算が、どちらも90パーセントを超えてい
		1	A: 90%以上 B: 80%以上	A 694%	る。 課題:後期も、この評価を維持したい。 課題:後期も、この評価を維持したい。
		1	C: 70%以上 D: 70%未満	1095%	改善策:後期には、研究授業が7回予定されている。これらの授業案作成や参観を授 業改善に役立てたい。
生徒の人間関係力を 育成することにより、円	0	HR活動や委員会活動を通し て、集団づくりや人間関係づく	校内の活動で、十分な意見交換や協働した取組が日常的に達成		成果:ほとんどの生徒は、HR活動や委員会活動を通して、集団づくりや人間関係
育成することにより、円 滑な社会生活を送る 資質を養い、人間力を		りを進め人間関係力を育てる。	A: 80%以上 B: 70%以上	Α	づくりを進め人間関係力を育てることができている。 課 題:1年生であまり達成できなかったと回答した割合が高い。
育む。		1	C: 60%以上	93%	改善策:今後の生徒会活動や学校行事を有効に活用し、積極的な活動を支援する。
	2	携帯電話・スマートフォンの使	D: 60%未満 生徒1人あたりの携帯・スマートフォンの学習以外の1日平均使用		
		用ルール遵守と1日の使用時 間を削減する指導を進める。	時間が A: 30分以内	D	成 果:スマホの使用内容を精選し、学習活動に積極的に活用する生徒が増えている。
		1	B: 40分以内 C: 50分以内	67分	改善策:学習時間の確保でスマホの使用時間を減らすよう生活習慣を見直させる。
	(3)	時間厳守の習慣の確立を目指	D: 50分より長い 「遅刻0の日数」が、「年間授業日数」に対して		成 果:ほとんどの生徒は、時間厳守の習慣の確立し、遅刻することなく登校してい
		し、「遅刻0運動」を継続する。	A: 85%以上	C	次 来:などの主張は、阿剛取りの自債の幅立し、圧肉することなり並及している。
		1	B: 75%以上 C: 65%以上	72%	課 題:特定の生徒が遅刻の常習となっている。
	(4)	挨拶や服装・交通マナーなど	D: 65%未満 日常的に挨拶ができ、規則を守ることができた生徒の割合が		改善策:遅刻する生徒には、担任と連携し、遅刻防止の個別指導に取り組んでいく。
		基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。		Λ	成 果:ほとんどの生徒は、挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣が十分身に付いている。
			A: 85%以上 B: 70%以上	A 98%	課 題:頭髪服装検査、自転車での交通違反などで指導を受ける生徒がいる。 改善策:学校全体の挨拶運動やマナー向上の運動を通じて、個人の生活習慣の定着に
		<u> </u>	C: 60%以上 D: 60%未満	56 /6	結びつけていく。
地域社会や地元中学 校と連携した取組によ	0	他者や地域と協働した探究学 習を行い、学びに対する前向	ゆめかなプロジェクト(総合的な探究の時間)に対して、生徒の満 足度が		11月・2月のアンケートで評価。
り、探究力・社会力を 育成する。		きな心を育む。	A: 80%以上 B: 70%以上	未	
		1	C: 60%以上 D: 60%未満		
		各教科の授業や探究学習に おいて地元小・中学校との接	市内小・中学生と高校生がともに学んだ回数が、		コロナウイルス感染症の影響で未実施。今後オンラインでの交流を検討中。
		続・連携を図る。	A: 20回以上 B: 15回以上	未	
		1	C: 10回以上	//	
	3	地元への愛着心を涵養し、地 元産業に貢献する意欲を持っ	企業見学会、講演会等により、地元に就職することについて理解 を深め、以前より地元に貢献する意欲が高まったと答えた生徒の		新型コロナウイルス感染症拡大のため、7月に予定していた地元企業見学会が中止となっため判定の材料がない。ただし、3年生の民間就職希望者11名のうち10名が地元企業
		た人材を育成する企業見学 会、講演会を実施する。	割合が	+	の就職を希望している。また、12月に2年生を対象とした「地元企業を知る会」の実施
					予定している。
			A: 80%以上 B: 70%以上	未	予定している。
				*	予定している。
		業」と、地域学などにおいて地	B: 70%以上 C: 60%以上		予定している。 10月・2月のアンケートで評価。
			B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未满	未	予定している。
		業」と、地域学などにおいて地 域と連携した授業展開をすす	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上		予定している。
	5	業」と、地域学などにおいて地 域と連携した授業展開をすす め、地域愛を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、、	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上		予定している。
	5	業」と、地域学などにおいて地 域と連携した投票展開をすす め、地域愛を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、 ボランティア活動や小・中学校 と合同練習会などを積極的に い、地域社会に貢献できる	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上	未	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。
	5	業)と、地域学などにおいて地域と連携した投業展開をすすめ、地域受を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、ホアティア活動や小・中学校と合同練習会などを積極的に	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 中間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%以上		予定している。 10月・2月のアンケートで評価。
	6	業人と地域学などにおいて地 域と連携ルた発展開をすす め、地域受を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに ボランティア活動や小・中学校 と合同練習会などを積極的に 行い、地域社会に貢献できる 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 A: 80%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を持ちで行われたアンケートの対合	未	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果:昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	5	業と、地域学などにおいて地 域と連携した発展開をすす め、地域愛を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、 ボランアイ活動が、中学校 と同様智会などを積極的に 行い、地域社会に貢献できる 人材を育てる。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 D: 60%未満 A: 80%以上 A: 90%以上	未未	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果:昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 課題:アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策:回答等側目の前日や割に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたア
法の改善により、ワー	5	業と、地域学などにおいて地 域と連携した登集展開をすす め、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごに、 ボランケアで活動や小中中学校 と合同時間会会とを積極的に 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 体で行い、効サートを電子媒 体で行い、効サートを電子媒 体で行い、効サートを電子媒	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を明を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 必対で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上	未	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分象でアンケートの電子化を実践している。 課題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	6	業人と地域学などにおいて地 域と連携ルた発展開をすす め、地域愛を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、 ボランティア活動や小・中学校 と合同練習会などを積極的に 行い、地域社会に貢献できる 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 体で行い、効率的な業務改善 を推進する。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 は持て行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 D: 60%未満 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 50%以上 D: 50%以上 D: 50%以上	未 未 B	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 議題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答報切目の削日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたアケートの回答方法をわかりやすく工夫する。
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	5 0 2	業と、地域学などにおいて地 域と連携した登集展開をすす め、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごに、 ボランケアで活動や小中中学校 と合同時間会会とを積極的に 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 体で行い、効サートを電子媒 体で行い、効サートを電子媒 体で行い、効サートを電子媒	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 が A: 80%以上 D: 60%未満 が A: 90%以上 D: 60%未満 ボンライン会議によって、負担が軽減し、ワークライフパランスに良い影響を与えた感じた数負の割合が	未 未 B 76%	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 課題: アンケートを電子化すると紙鉱体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答練切目の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたアケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果: コロナ陽ということや、県で推進しているGIGAメクール構想もあり、職員室で、フライン研修や会議に出席している姿が幹年度よりも多い。 課題: 月日回路課として、エンライン推過のお知らせを流しているが、それ以外の有效
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	5 0 2	業人と地域学などにおいて地 域と連携ルた発展開をすす め、地域愛を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、 なランティア活動や小・中学校 と合同練習会などを積極的に 行い、地域社会に貢献できる 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 体で行い、効率的な業務改善 を推進する。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 及内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 オンテイン会議によって、負担が軽減し、ワークライフバランスに良い影響を与えたと感じた教員の割合が A: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%未満	未 未 B	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 課題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答報切日の前日で自日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの囲音力法をわかりやすく工夫する。 成果: コロナ陽ということや、県で推進しているGIGAスタール構想もあり、職員室で シライン研修や会議に出席している姿が昨年度よりも多い。
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	5	業込、地域学などにおいて地域と連携ルで持った。 地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、 ボランティブ活動や小・中学校 と合同機管会などを積極的に イバ・、地域大きに貢献できる 人材を育てる。 「節な限りアンケートを電子媒体で行い、効率的な業務改善 を推進する。 オンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善 を推進する。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 B: 70%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 B: 70%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 50%以上 D: 50%以上 D: 50%以上 D: 50%以上 D: 50%以上 D: 50%以上	未 未 B 76% A 71%	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 歳果:昨年と比較して、多くの分案でアンケートの電子化を実践している。 譲騰:アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策:回答締切日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果:コロナ場ということや、県で推進しているGIGAスタール構想もあり、職員室で製男月日回路発展として、オンライン推進のお知らせを流しているが、それ以外の有2年立てが今のところない。 改善策:お知らせや推進に関する取組について、新た手立てを総務課として提案する。
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	\$\begin{align*} \text{S} & \text{O} &	業人と地域学などにおいて地 域と連携ルた発展開をすす め、地域愛を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、 なランティア活動や小・中学校 と合同練習会などを積極的に 行い、地域社会に貢献できる 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 体で行い、効率的な業務改善 を推進する。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を対して、会様が軽減し、ワークライフバランズに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 40%未足 D: 40%以上	未 未 B 76% A 71%	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 課題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答締切日の前日で当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果: コロナ場ということや、限で推進しているG、IGAスタール構想もあり、職員窓で選醒: 月日の経路課として、オンライン推進のお知らせを渡しているが、それ以外の有容を変に、オンライン推進のお知らせを渡しているが、それ以外の有容を変に、おからしているが、それ以外の有容を変に、おからして必要に、まからしてとるない。 本書でが今のところない。 本書でいる今のようない。 本書でいる今のようない。 本書でいる今のようない。 本書でいる中では、新た手立てを総務課として提案する。 「現集実化は対して意識が高さったとアンケートより回答がおかるた。」 「はまることアンケートより回答があかるた。」 「はまることをできまったと言いた。」 「はまることをできまったとでアンケートより回答があかる。」 「はまることをできまったとでアンケートより回答があかるた。」 「はまることをできまったとでアンケートより回答があかるた。」 「はまることをできまったとでアンケートより回答があかるた。」 「はまることをできまったとでアンケートより回答があかるた。」 「はまることをできまったとできまったとできまった。」 「はないてきまった」 「はないてきまっ
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	\$\begin{align*} \text{S} & \text{O} &	業人、地域学などにおいて地域と連携ルで発展開をすすめ、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、ボランティブ活動や小・中学校と合同報会などを積極的にイバリ、地域大会に貢献できる人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒体で行い、地域大会に貢献できる人材を育てる。 本ンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。 職場環境を良好にし、環境による配慮したこ本の削減を推進する。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行むれたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 大学が会議によって、負担が軽減し、ワークライフパランスに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 B: 50%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 D: 40%未満 養麗ニスのリサイクルに積極的に活動することができ、職場環境を実好に保っとといてまた。大阪は大田・アンが、未満	未 未 B 76% A 71%	プルスタートで評価。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートを電子化すると新媒体よりも回収率が下がる。 20番第 :回答等の間前や当日に一斉メールでお知らせずるとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 20年第 :回答等があるわかりやすく工夫する。 20年7年7日の日本の大学の場合では、電子化されたフケートの回答がある。それ以外の有名主立でが今のところない。 2日本の大学を選ば出席している姿が昨年度よりも多い。 20番第 :お知らせや推進に関する取組について、新た手立てを総務課として提案する。 20年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8年8
法の改善により、ワー クライフバランスを実現	\$\begin{align*} \text{S} & \text{O} &	業人、地域学などにおいて地域と連携ルで発展開をすすめ、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、ボランティブ活動や小・中学校と合同報会などを積極的にイバリ、地域大会に貢献できる人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒体で行い、地域大会に貢献できる人材を育てる。 本ンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。 職場環境を良好にし、環境による配慮したこ本の削減を推進する。	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 D: 50%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 及付で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 オンライン会議によって、負担が軽減し、ワークライフパランスに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 60%未満 オンライン会議によって、負担が軽減し、ワークライフパランスに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 C: 40%以上 C: 40%以上	未 未 B 76% A 71%	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 護題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答締切日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果: コロナ場ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室で成業: コロナ場ということや、県で推進しているGiGAスクール構想もあり、職員室で表示に出席している姿が昨年度よりも多い。 成果: コロナ場ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室で表示に対応を認定しているが、それ以外の有な音楽に対応することが今のところな、場ではまったい。第た手立てを総務課として提案する。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛けり、環境実化と対して意識が高まったとアンケートより回答があった。(当てはまること後、まままあま)ではまる。39%、あまり当てはまらない。8%、当てはまらない。8%、当てはまらない。8%、当てはまらない。8%、当てはまらない。8%、当てはまらない。9% あった。)
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想実	3	業以と地域学などにおいて地域と連携した登集展開をすすめ、地域要を育てる。 生装会活動や部活動ごに、ボランカア目標動やかい中学校と含い同様のできるとを構動がに対した。 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒体で行い、効率的な業務改善を推進する。 本ンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。 職場環境を良好にし、環境に配慮したごみの削減を推進する。 「個なないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	B: 70%以上 C: 60%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 A: 80%以上 D: 60%未満 A: 80%以上 D: 60%未満 A: 80%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 D: 60%未満 A: 90%以上 D: 60%未満 A: 70%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%よ満 愛麗ニンのリサイクルに積極的に活動することができ、職場環境を 及好に保つことができたと感じた教員の割合が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 B: 60%以上	未 未 B 76% A 71%	プルートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 議題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答締印日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの国客方法をわかりやすく工夫する。 成果: ココナ場ということや、駅で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室でクイン研修会を選に出席している姿が昨年以りも多い。 運要: 月日回は跨課ということや、駅で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室で対からしてない。 インワイン作権のお知らせを流しているが、それ以外の有な支部でが今のといない。 て、オンライン推進のお知らせを流しているが、それ以外の有な支部ではまるが、おり、おり、環境実化と対して意識が高まったとアンケートより回答があった。 (当てはまる)、20%、表まり書いてはまるない。第6、当てはまるない。8%、当てはまるないの場合がよった。) 環 題: 全数員の意識が共通し行動できるているとはいえない。 改善策: より多くの教員が環境実化への意識を更に高められるようにICTツールを活用るなどの働きが1を進める。 成 果: 積極的に授業に取り入れる教員が増えてきた。
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想実 現に向けて、投業力向 上や牧務の効率化に	3	業人と地域学などにおいて地域と連携ルで作か、地域受を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、ボランティブ活動や小・中学校と合同権登会などを積極的にイバリ、地域大会に貢献できる人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒体で行い、地域大会に貢献できる人材を育てる。 「節な限りアンケートを電子媒体で行い、効率的な業務改善を推進する。 職場環境を良好にし、環境にある。。 職場環境を良好にし、環境にある。。	B: 70%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を明る過去という。 電子化されたアンケートの割合が A: 80%以上 B: 70%以上 D: 60%未満 を明るが、上 B: 70%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 50%未満 を持たたと感じた数員の割合が A: 70%以上 C: 40%以上 D: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未分からたと感じた数員の割合が A: 70%以上 C: 40%以上 D: 40%未分ができたと感じた数員の割合が A: 70%以上 D: 40%未分ができたと感じた数員の割合が A: 70%以上 B: 60%以上 B: 60%以上 D: 40%未満	未 未 B 76% A 71%	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 護題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答締切目の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果: コロナ橋ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室で、フライン研修や会議に出席している受が非年度よりも多い。 産題: 月日回路管課として、メンライン権のお知らせを落しているが、それ以外の有な音楽であられることとない。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛ける音楽である。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛ける。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心はまることで、まままも当てはまるよい。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員がおよった。) 環 題: 全教員の意識が共通一行動できるでいるとはいえない。 改善第: より多くの教員が振発を大いの意識を更に高められるようにICTツールを活用るなどの働きけせを進める。 成果: 積極的に授業に取り入れる教員が指えてきた。 環 題: 使う場面を見いだせない教員がいる。 改善第: 早期に発いとり一台端末を用いた授業を実施することを研修会や個別対応によ
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想来 現に向けて、授業力向	3	業以と地域学などにおいて地域と連携した登集展開をすすめ、地域要を育てる。 生装会活動や部活動ごに、ボランカア目標動やかい中学校と含い同様のできるとを構動がに対した。 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒体で行い、効率的な業務改善を推進する。 本ンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。 職場環境を良好にし、環境に配慮したごみの削減を推進する。 「個なないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	B: 70%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を明ら過去と B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を明ら別よ上 D: 60%未満 を明ら別よし D: 60%未満 を明ら別よし D: 60%未満 を明ら別よし D: 60%未満 を明ら別よし D: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 60%以上 D: 50%以上 D: 40%未分から D: 40%未分から D: 40%未分から D: 40%より D: 40%よりできたと感じた教員の割合が A: 70%以上 D: 40%よりできたと感じた教員の割合が A: 70%以上 D: 50%よし C: 50%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	未 未 B 76% A 71%	プルートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 2月のアンケートを電子化すると新媒体よりも回収率が下がる。 20番第 二回答数り目の前日や当日に一考メールでお知らせずるとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 20年第二回答案ということや、県で推進しているGIGAスタール構想もあり、職員室・メッティン研修を会議に出版している姿が昨年度よりも多い。 20世界 1月回縁務課として、オンライン推進のお知らせを流しているが、それ以外の有変 事立でが今のところない。 20番第:お知らせや推進に関ける取組について、新た手立てを総務課として提案する。 20、東第二は初しせや推進に関ける取組について、新た手立てを総務課として提案する。 32、東・ゴミの分別や電源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心解するからた。 3日、東京ないまりて意識が集るとアンマートより回答があった。 3日、東京ないまりて意識が集るとアンマートより回答があった。 3日、東京ないまりてはまる。 3年、第一次の分別で表現しているとはいえない。 3年、2年の場合はいまない。28%、当てはまらない。29%、3年のよりに対しているとはいえない。3年の表現の表現が出場されているとはいえない。 3年、2年の場合はいまります。 3年、2年の場合はいまります。 3年、2年の場合はいまります。 3年、2年の場合はいまります。 3年、3年の場合はいまります。 3年、3年の場合はいまります。 3年、3年の場合はいまります。 3年、3年の場合はいまります。 3年の場合はいまります。 3年のよります。 3年のよりまする。 3年のよります。 3年のよります。 3年のよりまする。 3年のよります
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想実 現に向けて、投業力向 上や牧務の効率化に	3	業以と地域学などにおいて地域と連携した程泉開帯ですか、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごに、ボランテ・グで活動やかい中等的といった。 生徒会活動や部活動ごに、からからかい中等的というでは、できる同様できるのでは、できないとを構造できる。 東塚世帯できる。 本ンラインでの会議の参加加回数を推進する。 職場環境を良好にし、環境に配慮したごみの削減を推進する。 「GIGA校内研修年期計画に基づいて、研修をすすめる。	B: 70%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を明る過去という。電子化されたアンケートの割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を明る過去という。電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 D: 60%未満 を明る過去という。現立が軽減し、ワークライフパランスに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 60%以上 D: 40%より D: 40%は上 C: 40%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 D: 40%未満 教育の定義という。表現が軽減し、ワークライフパランスに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 70%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	未 未 B 76% A 71% A 91% B	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果: 昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 護題: アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策: 回答締切目の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果: コロナ橋ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室で、フライン研修や会議に出席している受が非年度よりも多い。 産題: 月日回路管課として、メンライン権のお知らせを落しているが、それ以外の有な音楽であられることとない。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛ける音楽である。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛ける。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心はまることで、まままも当てはまるよい。 成果: ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員がおよった。) 環 題: 全教員の意識が共通一行動できるでいるとはいえない。 改善第: より多くの教員が振発を大いの意識を更に高められるようにICTツールを活用るなどの働きけせを進める。 成果: 積極的に授業に取り入れる教員が指えてきた。 環 題: 使う場面を見いだせない教員がいる。 改善第: 早期に発いとり一台端末を用いた授業を実施することを研修会や個別対応によ
法の改善により、ワークライフバランスを実現 ウライフバランスを実現 する。 GIGAスクール情想実 現に向けて、投業力向 上や牧務の効率化に		業以と地域学などにおいて地 域と連携した登泉開帯をすす め、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごに、 ボランティア活動や利・中学校 と合同様のなどを積極的に 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 を作で行い、効率的な業務改善 を推進する。 最軽環境を良好にし、環境に 配慮したごみの削減を推進する。 GIGA投内研修年間計画に基 づいて、研修をすすめる。 GIGAなクール構想の取由に、 より、教師の授業力が向上に と表的解析とし、 ないて、研修をすすめる。 GIGAなクール構想の取由に より、教師の授業力が向上に と表的解析とに、 まり、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	B: 70%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行むれたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行むれたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 受訴と方式と感じた教員の割合が A: 60%以上 D: 50%未成した。 D: 40%未分した。 D: 40%未分した。 D: 40%より D: 40%以上 C: 40%以上 C: 50%以上 D: 50%は上 C: 50%以上 D: 50%未満 教科の授業で最低1回1人1台端末を用いた教員の割合が A: 80%以上 C: 40%以上 D: 50%未満	未	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果:昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 護題:アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策:回答締切日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたフケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果:コロナ陽ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室、フライン研修や会議に出席している交が昨年度よりも多い。 護題:月日回路影測として、エンライン推画の対知らせを能しているが、それ以外の有な事立てが今のところない。 改善策 ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛けり、環境実化に対して意識が高まったとアンケートより固含があった。(信ではまる:22%、まあまら当てはまる 139%、あまり当てはまらない:8%。当てはまらない。第、選手とに対して意識が高まったとアンケートより固含があった。(信ではまる:22%、まあまら当てはまる 139%。あまり当てはまらない:8%。当てはまらないのが、意味 選:大多くの教員が環境実化への意識を更に高められるようにICTツールを活用るなどの働きかけを進める。 成果:積極的に授業に取り入れる教員が増えてきた。環題:使う場面を見いだなない教員がいる。 成男:大事様略的に授業に取り入れる教員が増えてきた。環題:使う場面を見いだなない教員がいる。 成男: 単期に生徒ひとり一台端末を用いた授業を実施することを研修会や個別対応には連定を開始で述れ、教員がいる。
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想実 現に向けて、投業力向 上や牧務の効率化に		業人と地域学などにおいて地域と連携した学典開帯をすすめ、地域受を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに、ボランティで活動や小・中学なと合同種含な足とを積極的に 人材を育てる。 「能な限りアンケートを電子様体で行い、地域大きに貢献できる人材を育てる。 本ンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。 職場環境を良好にし、環境にある。 「GIGA校内研修年期計画に基づいて、研修をすすめる。 GIGA校内研修年期計画に基づいて、研修をすすめる。	B: 70%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 40%以上 D: 60%未満 受難と与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 40%未分と必要によって、負担が軽減し、ワークライフバランズに良い影響を与えたと感じた数員の割合が A: 70%以上 C: 40%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 D: 40%未満 を解したできたと感じた数員の割合が A: 70%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 D: 50%未満 教料の授業で最低1回1人1台端末を用いた教員の割合が A: 80%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 D: 50%は上 D: 50%は上 C: 40%以上 D: 50%は上 D: 50%は上 D: 50%は上 D: 50%以上 C: 40%以上 D: 50%以上 C: 40%以上 D: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%本活機と B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%本活用した受棄で、学ぶ興味や意欲が増した生徒の割合が A: 80%以上 C: 40%以上 D: 40%本活用した受棄で、学ぶ興味や意欲が増した生徒の割合が A: 80%以上	未 未 B 76% A 71% A 91% B	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果:昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 護題:アンケートを電子化すると紙螺体よりも回収率が下がる。 改善策:回答締切日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたアケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果:コロナ陽ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室でケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果:コロナ陽ということや、県で推進しているGiGAスクール構想もあり、職員室に対策と対策を会議に出席している姿が単年度よりも多い。 環題:月日回路停護として、エンライン推進しているが、それ以外の有效音が立か合のところない。 改善策 ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当別に呼びかけた結果、教員が心掛けり、環境実化に対して意識が高まったとアンケートより回答があった。(当てはまらない・8%、当てはまらない・8%、当てはまらない・8%、当てはまらない・10%であった。大きた当てはまらない・10%で、まりまりをの教員が環境実化への意識を更に高められるようにICTツールを活用るなどの働きかけを進める。 成 果:積極的に授業に取り入れる教員が増えてきた。 環 題:使う場面を見いだせない教員がいる。 成 第: 模様的に授業に取り入れる教員が増えてきた。 環 題:使う場面を見いだなない。 成善策 3年間に生徒ひとり一台端末を用いた授業を実施することを研修会や個別対応によ
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想実 現に向けて、投業力向 上や校務の事中化に	3	業込、地域学などにおいて地域と連携した学校の、地域受を育てる。 生徒会活動や部活動ごとに ボランティア活動や小・中学と合同権的なとを積極的に 人材を育てる。 「一部な限りアンケートを電子媒体で行い、地域大会に貢献できる。 オンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。 職装環境を良好にし、環境に る。 GIGA校内研修年間計画に基づいて、研修をすすめる。 GIGA校内研修年間計画に基づいて、研修をすすめる。 GIGA校内研修年間計画に基立り、教師の授業力が向上し、生徒が積極的かつま像する。	B: 70%以上 D: 10回未満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行むれたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 校内で行むれたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 B: 70%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 を与えたと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 60%未満 資産ごみのリサイクルに積極的に活動することができ、職場環境を 及がに保ったができたと感じた数員の割合が A: 70%以上 C: 40%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 D: 50%未満 教科の受棄で最低1回1人1台端末を用いた教員の割合が A: 80%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 C: 40%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 50%以上 C: 60%以上 C: 40%以上 D: 50%未満	未	プルース (当ている。
法の改善により、ワー クライフパランスを実現 する。 GIGAスクール情想実 現に向けて、投業力向 上や校務の事中化に	3	業以と地域学などにおいて地 域と連携した登泉開帯をすす め、地域要を育てる。 生徒会活動や部活動ごに、 ボランティア活動や利・中学校 と合同様のなどを積極的に 人材を育てる。 可能な限りアンケートを電子媒 を作で行い、効率的な業務改善 を推進する。 最軽環境を良好にし、環境に 配慮したごみの削減を推進する。 GIGA投内研修年間計画に基 づいて、研修をすすめる。 GIGAなクール構想の取由に、 より、教師の授業力が向上に と表的解析とし、 ないて、研修をすすめる。 GIGAなクール構想の取由に より、教師の授業力が向上に と表的解析とに、 まり、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	B: 70%以上 D: 10回末満 地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が A: 80%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 投付で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が A: 90%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 たりの%以上 D: 60%未満 を対っている。 A: 80%以上 D: 60%未満 を対っている。 A: 80%以上 D: 60%未満 を対っている。 A: 90%以上 D: 60%未満 を対ったと感じた数員の割合が A: 90%以上 D: 60%未満 を対ったと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 60%未満 を対ったと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 60%未満 を対ったと感じた数員の割合が A: 60%以上 D: 40%未満 を対ったとができたと感じた数員の割合が A: 70%以上 D: 50%未満 数件の授業で最低1回1人1台端末を用いた数員の割合が A: 80%以上 C: 40%未満 を対ったが高半にあります。 などのが以上 C: 50%以上 D: 60%以上 D: 50%未満	未	予定している。 10月・2月のアンケートで評価。 2月のアンケートで評価。 成果:昨年と比較して、多くの分家でアンケートの電子化を実践している。 護題:アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策:回答締切日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたアケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果:コロナ陽ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室でケートの回答方法をわかりやすく工夫する。 成果:コロナ陽ということや、県で推進しているGIGAスクール構想もあり、職員室で大小の手を会議に出席している姿が単年度よりも多い。 職題:月日回路務課として、オンライン推動のお知らせを流しているが、それ以外の有效音楽に対からのところない。 改善策 ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当別に呼びかけた結果、教員が心掛けり、環境実化に対して意識が高まったとアンケートより回答があった。(当てはまらこ2%、まあまら当てはまら、39%、あまり当てはまらない・8%。当てはまらない・10%であった。実務書、より多くの教員が環境実化への意識を更に高められるようにICTツールを活用るなどの働きかけを進める。 成 果:積極的に授業に取り入れる教員が増えてきた。 環 題:使う場面を見いだせない教員がいる。 成 果:積極的に授業に取り入れる教員が増えてきた。 環 題:使う場面を見いだなない。 成善第 第:中期に生徒ひとり一台端末を用いた授業を実施することを研修会や個別対応によ